

果】C5, 6, 7 知覚髄節を頸髄入口部とする正中神経, C8, T1 知覚髄節を頸髄入口部とする尺骨神経の N9-N11 延長は, 単数でなく複数の知覚髄節障害で起こることをみいだした. N9-N11 と N11-N13 とが正中または尺骨神経 SEP のどちらかで延長するかの組み合わせから, 頸椎症性脊髄症など多椎レベル圧迫を呈する疾患の責任レベル決定や, 多発性硬化症など圧迫を認めない疾患の病変局在推定が可能であった. また N20 の振幅増大と頂点間潜時正常化は, 除圧術後の知覚回復の客観的指標になると考えられた.

18) 副腎髄質細胞の各種レセプターを介する
カテコラミン分泌

薬科 杉 (新瀉大学
第一生理)
藤原 直士 (同 麻酔科)

分離したラット副腎の灌流標本に, カテコラミンの連続測定法を適用し, ニコチン (NI), ブラジキニン (BK) 等の刺激時の分泌応答特性を解析した. NI 刺激による分泌は外液の Ca^{2+} 濃度が 100 μ M 以下ではほとんど抑制される. また, 外液への nifedipine (30 μ M) の添加によっても分泌は抑制された. 一方, BK 刺激による分泌は, 16 μ M 以下の低 Ca^{2+} においても正常

(2mM Ca^{2+}) の40%近くの分泌が観測され, nifedipin による抑制はみられなかった. 以上より, NI 刺激が Ca^{2+} channel から外液 Ca^{2+} を取り込み分泌を誘導するのに対し, BK 刺激では, Ca^{2+} の細胞内ストアからの動員および細胞外から, 通常の Ca^{2+} channel とは異なる経路による Ca^{2+} の導入とが分泌に関与することが示唆された.

特別講演

1) オピオイドレセプターと細胞内情報伝達系
京都大学薬学部薬理学教室

佐藤 公道 教授

2) Brain Damage and Ischemic Cerebral
Lactic Acidosis

Cornell Medical College, Department
of Neurology

Prof William A. Pulsinelli

3) 脳死をめぐる諸問題

大阪大学特殊救急部

杉本 侃 教授